

主要な経済指標の発表予定と予測 (2/2~2/6)

経済調査部
松浦大将
03-3591-1435
hiromasa.matsuura@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

2日 : 1月の新車販売台数

4日 : 12月の毎月勤労統計

6日 : 12月の景気動向指数（C I一致指数110.5、C I先行指数105.1）

貿易赤字は前月から縮小

26日に発表された12月の貿易統計では、輸出数量（※）が前月比+0.8%（11月同▲2.0%）と2カ月ぶりに増加した。アジア向け（同▲4.4%）が減少したものの、11月に大幅減となった欧州向け（11月同▲8.2%⇒12月同+8.2%）が反発したほか、米国向け（同+1.9%）が3カ月連続の増加となった。10~12月期でみると、輸出数量は前期比+3.2%（7~9月期同+0.7%）と伸びが大きく高まった。12月の輸入数量（※）は前月比▲2.3%（11月同▲1.0%）と2カ月連続で減少した。もっとも、10~12月期では前期比±0.0%（7~9月期同▲0.2%）と横ばいまで持ち直している。金額ベースでみると、輸入金額が横ばい圏で推移するなか、輸出金額が増加したため、貿易収支（季節調整値）の赤字額は7,121億円と11月（8,325億円の赤字）から縮小した。世界経済の緩やかな回復に伴い輸出が増加している一方、油価下落などが輸入金額を下押ししていることから、貿易収支の赤字幅は10月以降縮小が続いている。（※）みずほ総合研究所による季節調整値

消費は緩やかに持ち直し

29日に発表された12月の小売業販売額（季節調整値）は前月比▲0.3%（11月同▲0.2%）と3カ月連続で減少した。気温が例年よりも低かったことから冬物衣料が好調だった織物・衣服・身の回り品小売業（同+0.3%）が増加したものの、ガソリン価格の下落を受けて燃料小売業（同▲3.8%）などが減少した。もっとも、30日に発表された12月の家計調査の実質消費支出（全世帯）は前月比+0.4%（11月同+0.4%）と4カ月連続で増加しており、総じてみれば個人消費は緩やかな回復傾向を維持している。

鉱工業生産は2カ月ぶりの増産

本日発表された12月の鉱工業生産指数は前月比+1.0%（11月同▲0.5%）と2カ月ぶりに上昇した。スマートフォン向けが好調な電子部品・デバイス（同

+5.2%)や情報通信機械(同+10.8%)を中心に、速報段階で公表される15業種中11業種が増産となった。予測指数をみると、1月(同+6.3%)に増産した後、2月(同▲1.8%)に減産する計画となっている。予測指数をもとに3月が横ばいと仮定すると、1~3月期は前期比+5.6%(10~12月期同+1.8%)と計算される。生産は今後も回復基調が続く見込みである。

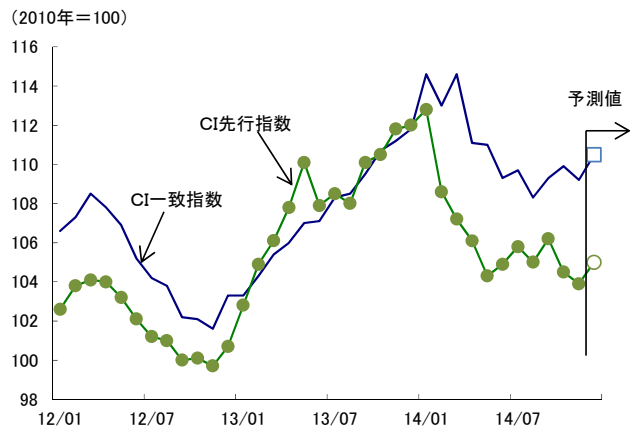
**全国コアCPIは前年比
プラス幅が縮小**

同日発表された12月の全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合、以下コアCPI)は、前年比+2.5%(11月同+2.7%)に伸びが縮小した。石油製品が前年比マイナスに転じたほか、教養娯楽用耐久財の伸びが低下した。また、全国コアCPIの先行指標となる1月の東京都区部コアCPI(中旬速報)も同+2.2%(12月同+2.3%)とプラス幅が縮小している。石油製品の下落幅が2桁まで拡大したことや、家庭用耐久財のマイナス幅が拡大したことなどが押し下げ要因となった。

**一致C I、先行C Iともに
上昇**

来週は景気動向指数などが発表される。2月6日に発表される12月の景気動向指数は、C I一致指数が110.5(11月:109.2)、C I先行指数が105.1(11月:103.9)と予測する。耐久消費財出荷などの製造業関連や有効求人倍率など多くの指標が押し上げに寄与し、一致C Iは2カ月ぶりに上昇する見通しである。先行C Iは、日経商品指数や中小企業売上見通しが悪化したものの、鉱工業生産財在庫率や最終需要財在庫率などが改善したため、3カ月ぶりに上昇する見込みである。

図表 景気動向指数の推移



(注) 2014年12月の値はみずほ総合研究所による予測値。
(資料) 内閣府「景気動向指数」

執筆担当～ 松浦大将

予測担当～ 景気動向指数：徳田秀信

米国主要経済指標(ダイアリー掲載分)：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回
1/30(金)	米 ミシガン大消費者信頼感指数(1月確報)	[98.2]	1月速報 98.2	12月確報 93.6
	GDP(10~12月期速報) 前期比年率	[+2.1%]	7~9月期 +5.0%	4~6月期 +4.6%
2/1(日)	中 製造業PMI(1月)	50.2	50.1	50.3
	非製造業PMI(1月)	N.A.	54.1	53.9
2/2(月)	中 HSBC製造業PMI(1月確報)	49.8	1月速報 49.8	12月確報 49.6
	米 製造業ISM指数(1月)	[55.5]	55.5	58.7
2/3(火)	日 10年利付国債入札			
	印 金融政策決定会合			
2/4(水)	日 毎月勤労統計(12月速報) 名目賃金 前年比	N.A.	+0.1%	+0.2%
	中 HSBCサービスPMI(1月)	N.A.	53.4	53.0
	米 非製造業ISM指数(1月)	[56.2]	56.2	59.3
2/5(木)	日 30年利付国債入札			
	米 個人所得(12月) 前月比	[+0.2%]	+0.4%	+0.3%
	消費支出(12月) 前月比	[▲0.3%]	+0.6%	+0.3%
	コアPCEデフレーター(12月) 前年比	[+1.4%]	+1.4%	+1.5%
	貿易収支(12月) 財・サ収支	▲383億 ^{ドル}	▲390億 ^{ドル}	▲422億 ^{ドル}
	失業保険新規申請件数(～1/31)	[290千人]	265千人	308千人
	英 英中銀金融政策委員会(4・5日)			
2/6(金)	日 先行DI	[33.3%]	50.0%	20.0%
	一致DI	[55.6%]	60.0%	70.0%
	先行CI	[105.1]	103.9	104.5
	一致CI	[110.5]	109.2	109.9
	米 雇用統計(1月)			
	失業率	[5.6%]	5.6%	5.8%
	非農業部門雇用者数 前月差	[+223千人]	+252千人	+353千人
	時間当たり賃金(全従業員ベース) 前月比	[+0.3%]	▲0.2%	+0.2%

予想：[]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。
日：日本、米：米国、英：英国、中：中国、印：インド